

畜産とくつく情報

平成 22 年 4 月 13 日 (第 112 号)
問い合わせ先
長野県農政部園芸畜産課
電話:026-235-7232、Fax:026-235-7481



みつばちの届出伝染病 アカリダニ症が、
国内で確認されました。



1 症状は？

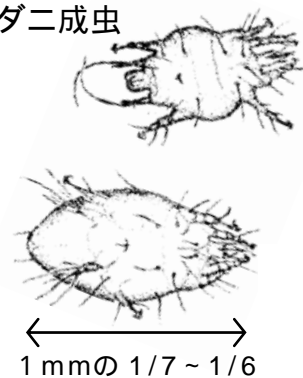
飛翔不能のハチが多くなった
蜂数の減少（特に越冬期）

2 アカリダニ症の原因は？

本症の原因であるアカリダニ(Acarapis woodi)は、ホコリダニ科の非常に小さなダニで成蜂の前胸部気管に寄生します。

病原性は強くなく、気管内でダニが非常に増殖した場合に気管が詰まってしまうため症状が出ると考えられています。サイズは雌；143～174×77～81 μm、雄；125～136×60～77 μm です。

ダニ成虫



3 どのように感染するのですか？

蜂と蜂の直接接触によるダニの伝播です。

蜂群間の伝播には蜂の迷い込みや盗蜂が要因として重要といわれています。

4 感染・発症を予防するためには、どのようなことに気を付ければよいでしょうか？

国内で認可されている予防薬・治療薬がないため、

蜂を導入する場合は、本ダニが寄生していない清浄群から導入する。

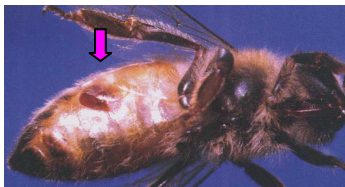
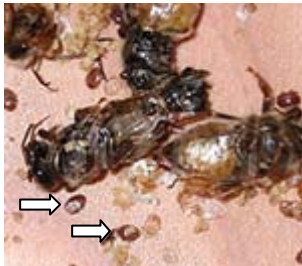

養蜂器具を消毒し、器具を介した感染を防止する。

疑わしい症状がミツバチに見られたら、
家畜保健衛生所へ連絡を下さい！

連絡先	電話番号	連絡先	電話番号
佐久家畜保健衛生所	0267-62-4123	飯田家畜保健衛生所	0265-53-0439
上田支所	0268-23-1630	松本家畜保健衛生所	0263-47-3223
伊那家畜保健衛生所	0265-72-2782	長野家畜保健衛生所	026-226-0923

その他の

主なみつばちの病気

名称	症状	予防
<p>アメリカ ふそ病</p> <p>法定 伝染病</p> <p>原因菌 <i>Paenibacillus larvae</i></p>	<ul style="list-style-type: none"> 幼虫またはサナギが死亡。死亡すると掃除されて、産卵圏の乱れとして現れる。 死亡した蜂児は、チョコレート色へ変化し、水分を失うと黒褐色の鱗状物となる。 有蓋房では、蓋が湿り、やや陥没し、小孔が開く。 ふそに棒を刺し、引き抜くと、虫体が長く糸を引く。 巣脾は膠臭がする。 発生蜂群は、法律により焼却処分  <p>産卵圏の乱れ</p>  <p>糸を引く蜂児</p>	<p>予防： 「みつばち用アピテン」を春と秋に投与 器具の定期的な消毒（カホックス等）</p> <p>原因菌は消毒薬が効きにくい（有効なのは、ヨード剤、塩素剤）</p>
<p>バロア病</p> <p>届出 伝染病</p> <p>原因：ミツバチヘギイタダニ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 蜂児は体液を吸われて、成長不全や小型化、羽・肢の伸張が不全なみつばち（奇形蜂）ができる。 本ダニの寄生が多くなると、蜂児やサナギの「死に籠もり」が出る。 ダニが巣房の蓋を破って外に出るとき開いた穴がふそ病の小孔と似ている。  <p>矢印：みつばちの腹部節間に入り込んだ ミツバチヘギイタダニ</p>  <p>ダニ（矢印）と羽の萎縮したハチ</p>	<p>ダニ駆除剤： 「アピスタン」 「アピバール」</p> <p>用法を誤ると、薬剤耐性のダニが出現するので、注意が必要。</p>
<p>チョーク病</p> <p>届出 伝染病</p> <p>原因：カビ <i>(Ascospaera apis)</i></p>	<ul style="list-style-type: none"> 3～4日齢の幼虫が、カビの胞子に感染。 蜂児は、白色または黒褐色をしたミイラ状になって死亡するので診断は容易。 巣門前や、巣房内にミイラ化した個体が散見される。 みつばちの活動が低下し、巣箱内の換気が悪くなると発症しやすい。 カビの胞子は環境に比較的長期間生存するので、一度発生した蜂場は、再発しやすい。  <p>ミイラ状の蜂児</p>	<p>巣箱の換気に注意し、蜂群を強性に保つことで、本病はほとんど防げる。</p>

ミツバチの様子をこまめに確認して、病気の予防と異常の早期発見で、
健康な蜂群を維持しましょう！